

# 令和4年産 美里地区の大豆情報



第3号 令和4年10月21日

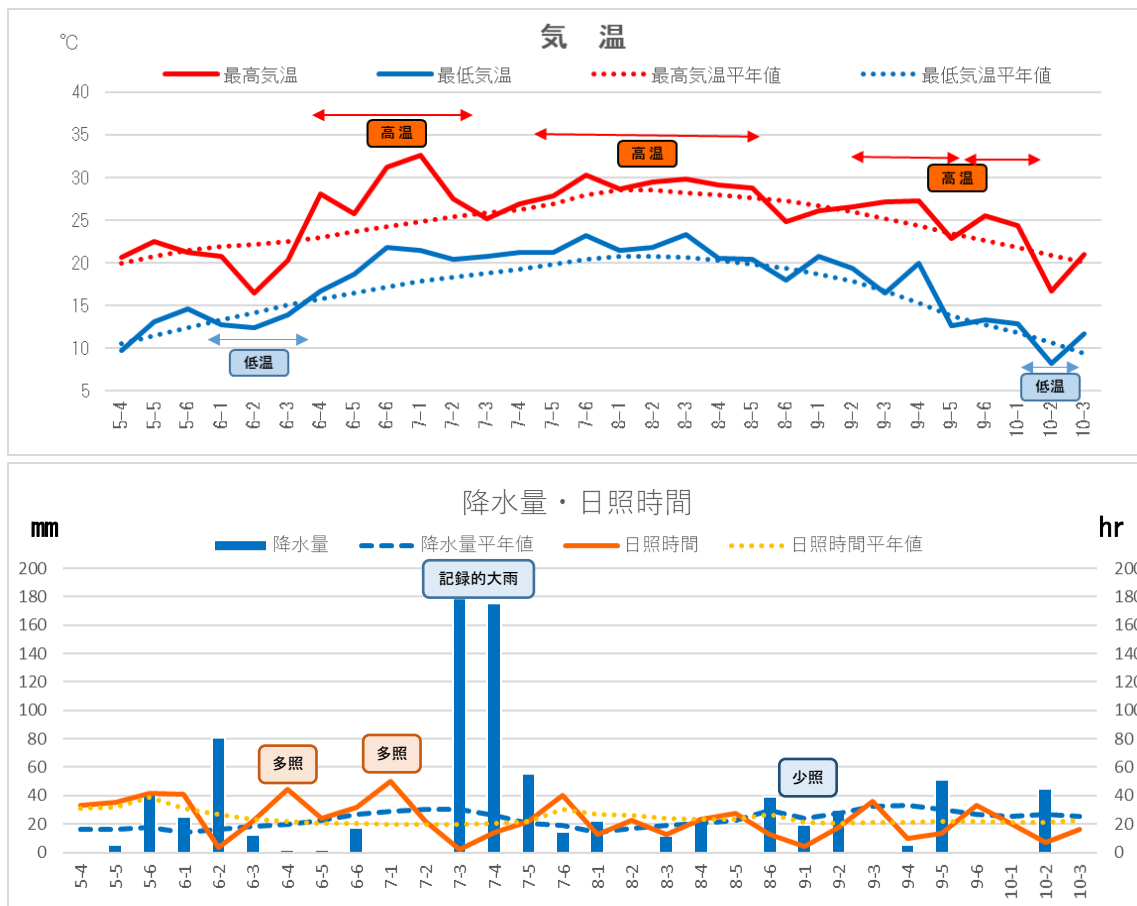
宮城県美里農業改良普及センター

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

## 1 気象経過及び生育状況



### 【本年産大豆の生育の特徴】

#### 【標播】

- ・5月下旬までに播種できたほ場では、出芽揃い・初期生育は良好となりました。その後6月第3半旬までは断続的な降雨により播種が遅れ（5月第6半旬～6月第3半旬の降水量：159.5mm 平年比238%）、播種作業終了は6月第5半旬頃となりました。
- ・5月中播種のほ場では6月第4半旬頃から1回目の中耕培土作業が実施されました。
- ・7月15、16日の大雨の影響により、多くのほ場で浸水・冠水の被害を受け、浸水の程度によって全体が枯死するほ場が見られるなど大きな被害を受けました。
- ・8月の気温は高めながら少照傾向、9月に入ると日照時間・降水量ともほぼ平年並みとなりました。
- ・タチナガハは10月上旬から落葉が、ミヤギシロメは中旬から葉の黄化が見られます。

#### 【麦後晩播】

- ・麦類の収穫作業が順調に進んだことから、播種作業が順調に進み出芽は概ね良好でした。7月の大雨で多くのほ場で被害を受け、8月以降の少照の影響で生育量確保が遅れたほ場も散見されました。10月中旬から葉の黄化が見られます。

## 2 今後の管理

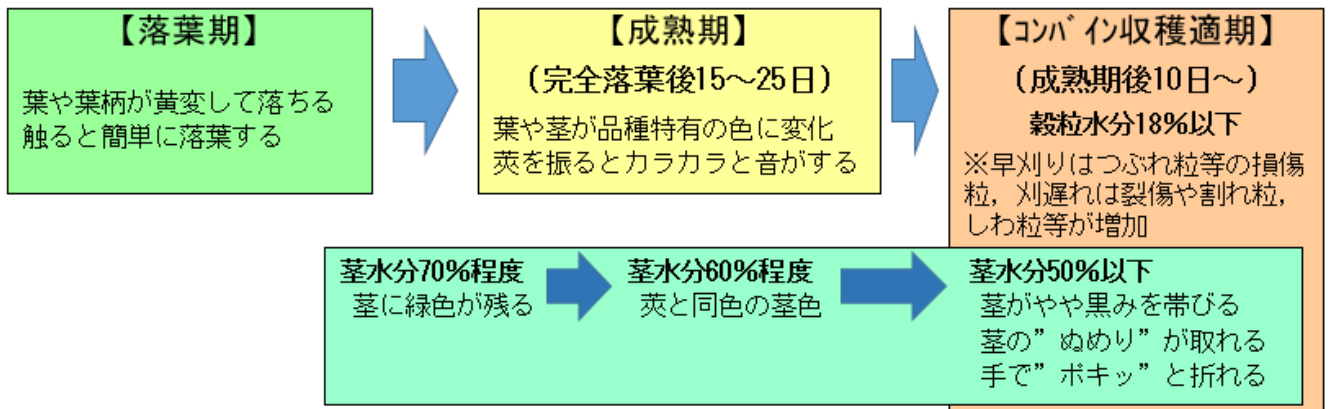
### (1) 排水対策 急な大雨に備えましょう

- ・近年、大雨等の気象災害が多くなっています。雨後でも一日でも早くほ場に入って作業ができるように、排水溝や明きよの点検・整備を実施しておきましょう。

### (2) 雑草抜き取り 汚粒発生防止のため収穫前にほ場をきれいにしましょう

- ・本年は、まとまった降雨があるなど防除作業が行いにくく、残草が多い傾向となっています。茎水分が高く、収穫時の汚粒発生の原因となり易い、アメリカセンダングサやタデ類、シロザ、イヌホオズキ等の雑草は刈り取りまでに抜き取っておきましょう。
- ・抜き取り作業をしなかったり、実施時期が遅かったりした場合は、雑草が成熟して多くの種子をほ場に落としてしまいます。雑草の成熟状況も勘案して作業計画を立てましょう。
- ・大豆の青立ち株（株の大きさに対して莢数が少なく、茎が緑色のままの株）も汚粒の原因となります。青立ち株は収穫時期までに茎水分が低下しないので必ず抜き取りましょう。
- ・抜き取りした雑草は、種子を落とした可能性が大きいので、次作でも発生の可能性が高いことから、雑草の種類をほ場ごとにメモしておき、今後の雑草防除に役立てましょう。

### (3) 収穫時期の判定 葉の黄化や落葉時期等を観察して収穫時期を計画しましょう



### (4) 収穫作業 穀粒損失や損傷・汚粒発生による収量・品質低下を防ぎましょう

- ・大豆では「収穫時の穀粒損失」が大きな減収要因となる場合があります。作業開始時や休憩時に収穫状況を確認しましょう。

○刈り残しロス	刈取高さを調整
○頭部損失	リールの位置、速度と作業速度の調整
○後部（排出）ロス	こぎ胴の処理能力と作業速度の調整

- ・収穫時の穀粒水分が「高い」と「つぶれ粒」が、「低い」と「裂傷や割れ豆」が増加します。収穫時の穀粒水分（15～18%）を確認（子実に爪を立てると少し痕が残る）しましょう。
- ・「汚粒」発生による品質低下を防ぎましょう。

○土の掻き込み	刈取高さは約10cmに調整、安定した収穫のできる運転技術
○雑草や大豆青立ち株	前日までに抜き取り終了
○コンバイン内部の汚れ	収穫前後に掃除、土掻き込み時の速やかな作業停止・掃除
○収穫時刻	莖や莢が乾いている時間帯（11時～16時）に収穫（右図参照）

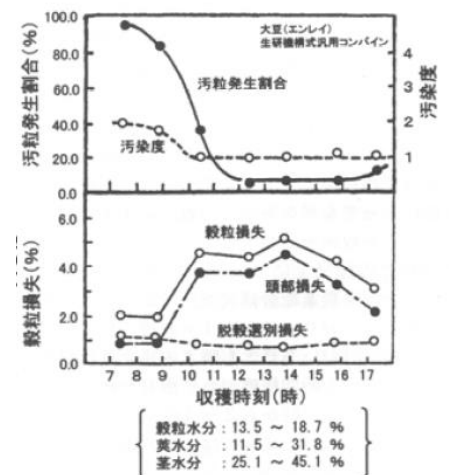


図 収穫時刻と汚粒発生 (みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針 より)

◇◇◇秋の農作業安全確認運動実施中（9月1日～11月30日）◇◇◇  
令和4年度テーマ 「しめよう！シートベルト」